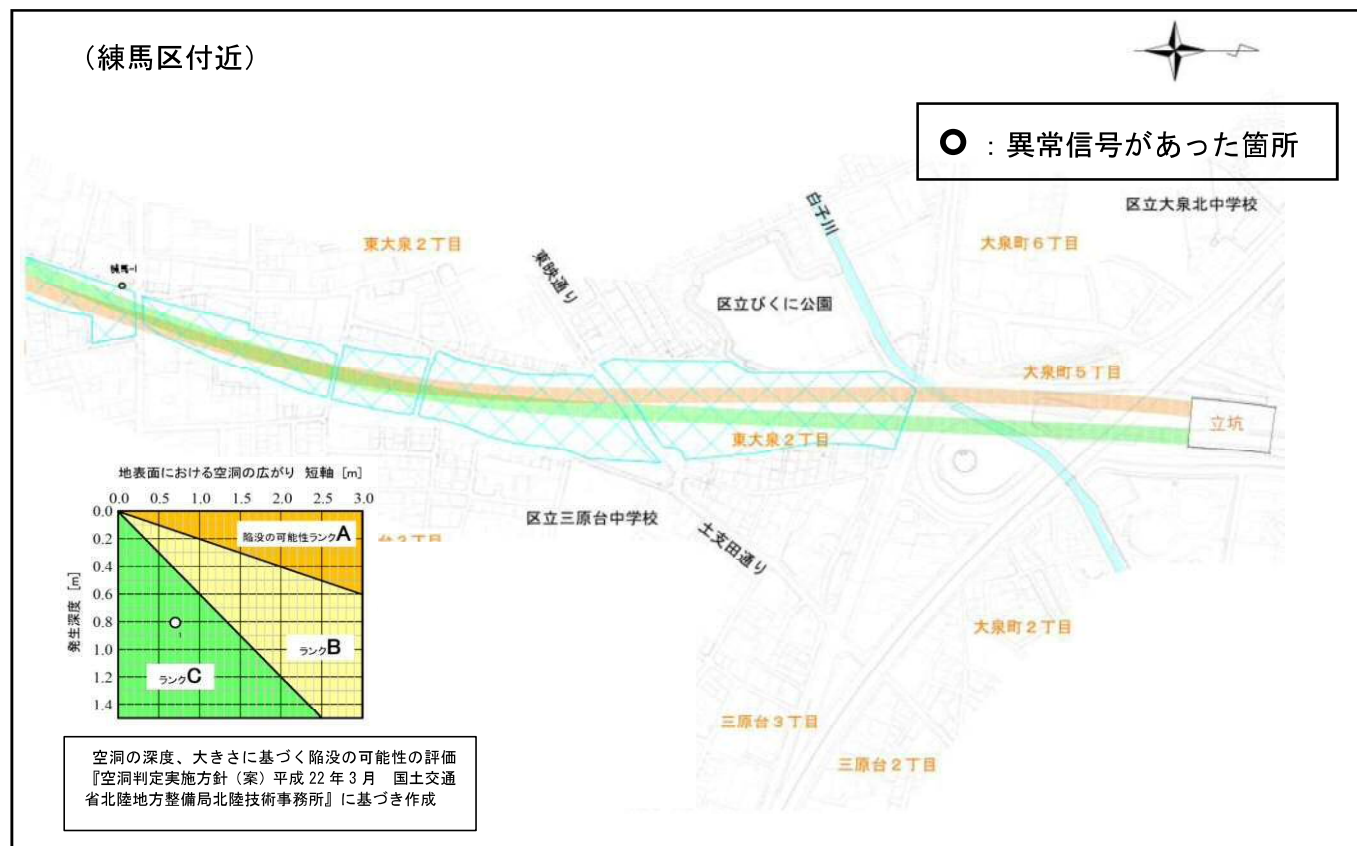
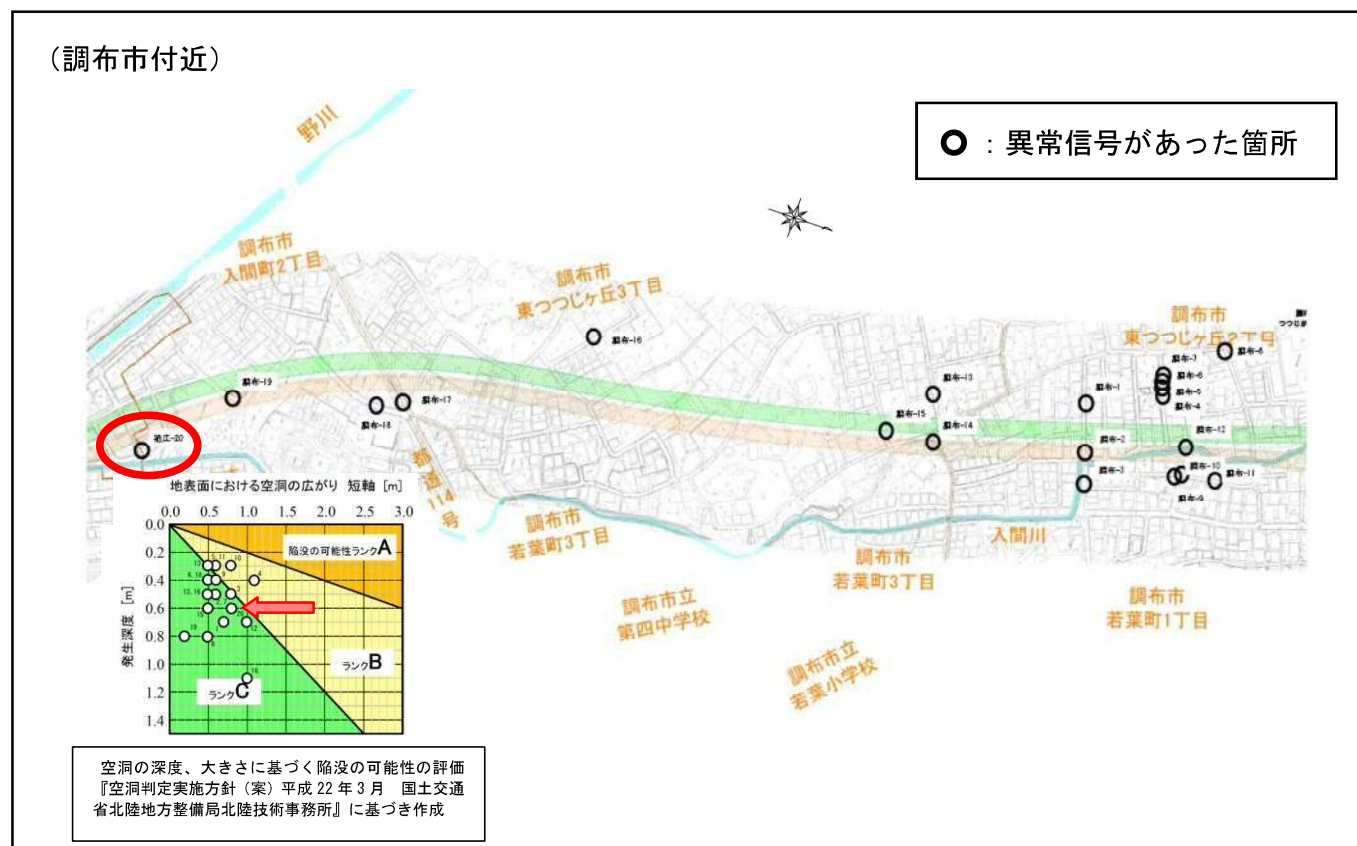
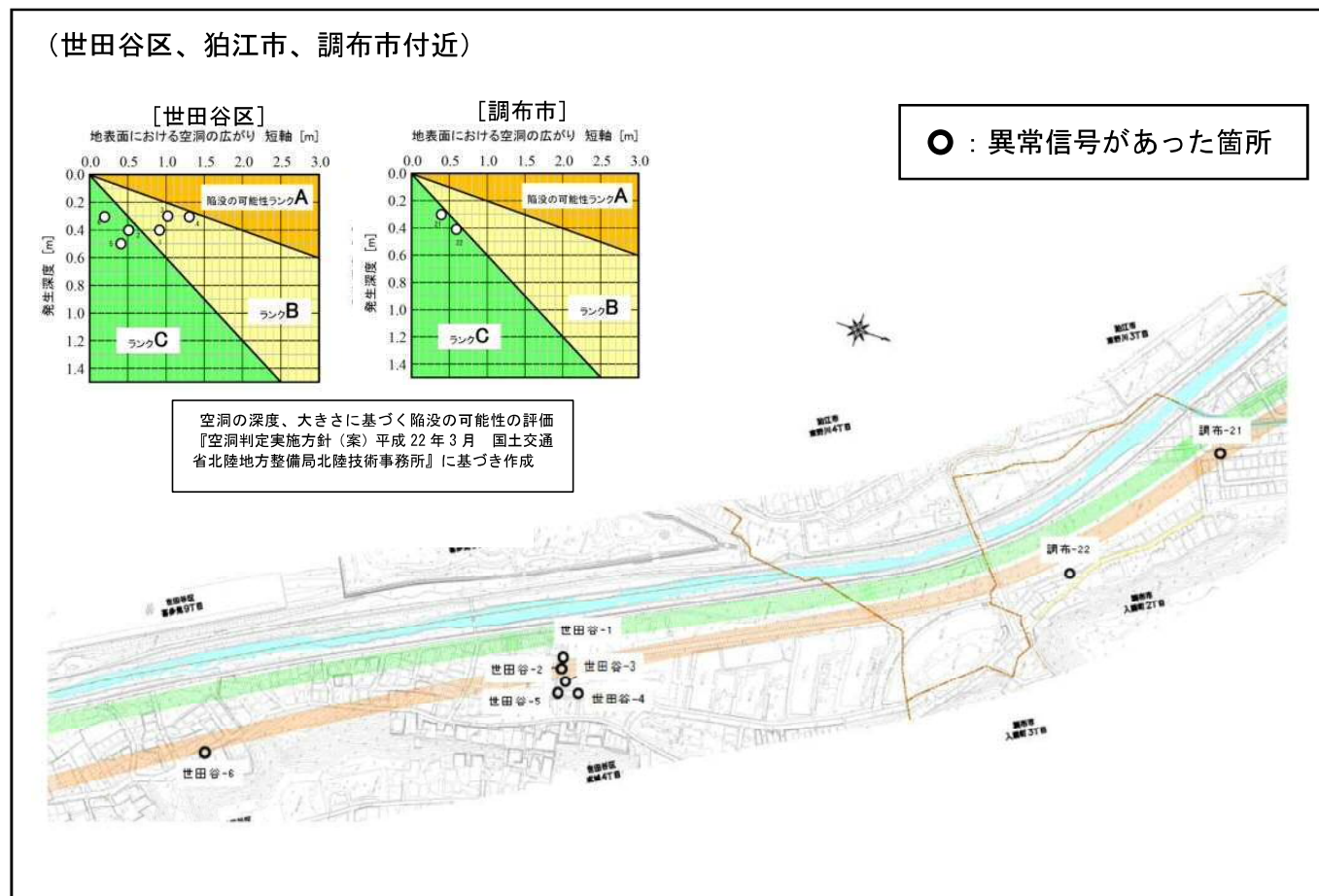
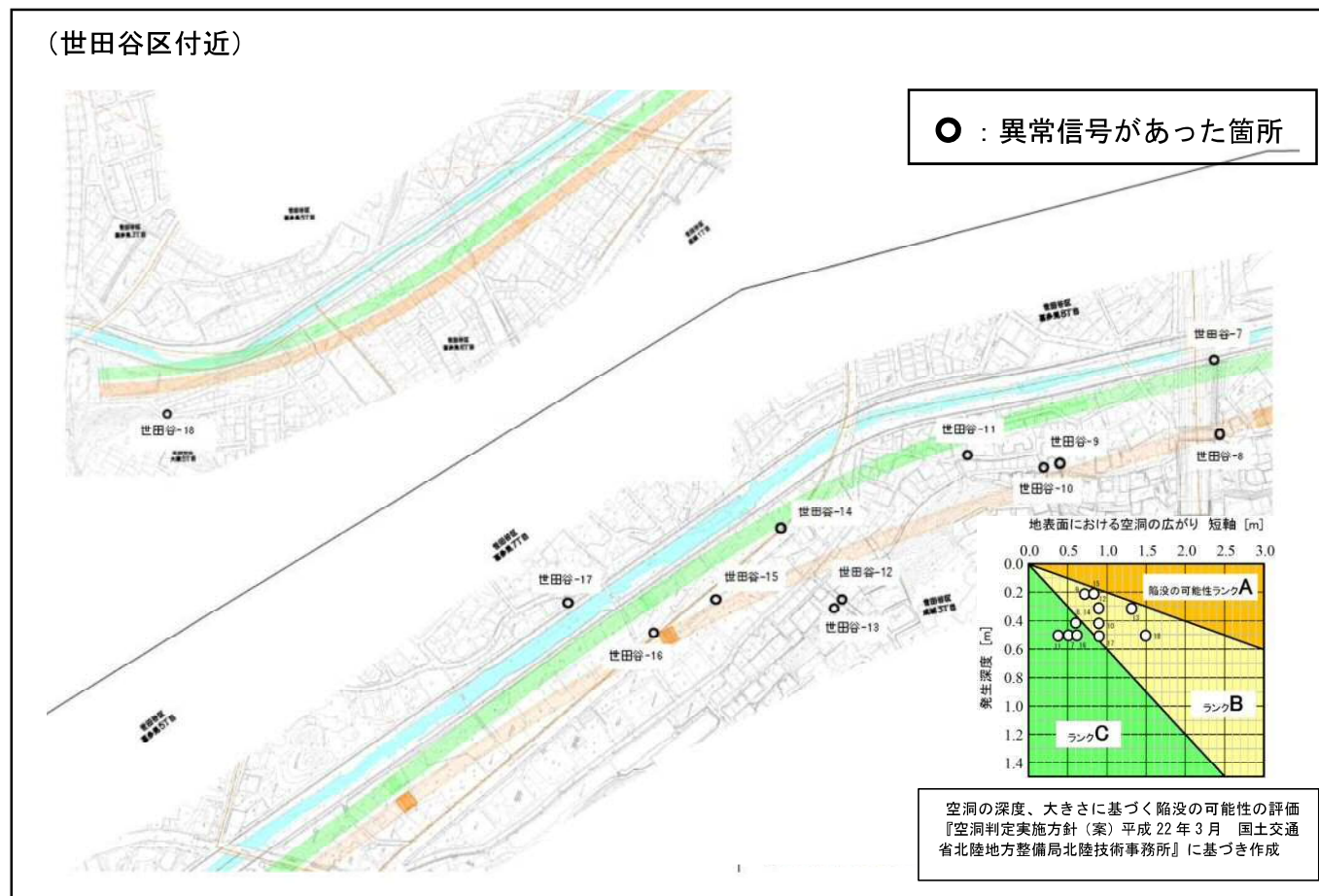


1.2 路面下空洞調査

路面下空洞調査は、地表下 1.5m 程度までの地下にある空洞を調査するものであり、陥没箇所・空洞箇所周辺において、10月18日に発生した陥没事象と同様に、直ちに陥没に至るような差し迫った空洞の有無を調べるために実施した。路面下空洞調査の結果、いずれの箇所も陥没の可能性ランクAに分類される箇所は確認されなかった。また、異常信号があった箇所は、トンネル直上に集中していないことから、シールドトンネルの施工が影響している可能性は低いと考えられる。(※地表面における空洞の広がり短軸が大きく、発生深度が浅いほど、陥没の可能性が高いランクAとなる。)



※対策優先度等の検討を行うためには、路面変状状況や空洞化原因を把握の上、総合的に判断する必要がある。